

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス宇大前教室		
○保護者評価実施期間	2026年3月19日		2026年3月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年3月19日		2026年3月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう、計画的な見直しと多様な内容の導入を図っている。	支援内容や児童の様子について職員間で日々情報共有を行い、共通理解のもとで一貫性のある支援を提供できるよう努めている。また、保護者との連携を大切にし、連絡帳や送迎時のやり取りを通じて、日々の様子や課題について丁寧な情報共有を行っている。	活動プログラムのさらなる多様化に向け、職員間でのアイデア共有や外部研修等を活用し、新たな活動内容の導入および改善を継続的に行う。
2	グループ法人内における複数事業の運営により蓄積された支援ノウハウを活用し、専門性の高い支援の提供および職員の資質向上に努めている。	職員の専門性向上を目的として、内部研修やOJTを計画的に実施するとともに、日々の支援の中で得られた気づきや課題についても積極的に共有している。これにより、職員一人ひとりの支援力の向上を図るとともに、組織全体としての支援の質の底上げにつなげている。	法人内の連携をさらに強化するため、事業間の交流や合同研修の機会を拡充し、多角的な視点での支援力向上を図る。また、各事業の実践を相互に学び合う文化の醸成に努める。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間での情報共有が十分とは言えず、共通理解に差が生じる場合がある	職員間での情報共有が十分に行き届いていない要因として、まず送迎業務等により職員の動きが分散し、全員が揃って打ち合わせを行う時間の確保が難しい状況が挙げられる。そのため、日々の支援終了後における振り返りや申し送りが十分に実施できない場合があり、結果として情報共有にばらつきが生じている。	情報共有の機会を確実に確保するため、短時間でも実施可能な定例ミーティングの導入や、送迎業務と重ならない時間帯での打ち合わせ時間の設定を検討し、継続的に振り返りが行える体制づくりを進める。
2	取組の見える化の弱さ	各種取組自体は日々の支援の中で実施されているものの、それらを体系的に整理・記録する仕組みが十分に整備されていないことが要因として挙げられる。そのため、個々の職員の実践がとどまり、組織全体としての取組として明確に位置付けられていない状況が見られる。さらに、日々の業務の中で優先順位が支援そのものに置かれやすく、記録・整理・発信といった業務が後回しになりがちであることも要因の一つである。これにより、実施した取組が十分に可視化されず、蓄積や活用に至っていない状況が見られる。	情報共有および記録の質を均一化するため、記録様式や記載内容の基準を統一し、誰が見ても分かりやすい形で取組内容が把握できるよう整備を行う。
3	地域との連携の不足	地域との連携が十分に図れていない要因として、日々の業務が事業所内での支援に集中しやすく、外部との関係構築に充てる時間や機会が十分に確保できていないことが挙げられる。また、地域の関係機関や施設との具体的な連携方法や窓口が明確に定まっていないことにより、継続的な関係づくりに至っていない点も要因の一つである。	地域交流を計画的に実施するため、年間計画の中に外部との交流機会を位置付け、無理のない範囲で段階的に実施できる体制づくりを進める。